

2024年6月30日

「どうして、この道を行くのか」

使徒言行録 22:6-21

坂元 高牧師

使徒パウロの物語は、イエス・キリスト誕生の数年前、紀元前10年頃に始まりますが、イエスとの出会いは、少年時代にはあったようです。

パウロはローマ市民権を持った良家の息子として生まれ、神を敬うよう育てられ、ユダヤ教の勉強のためエルサレムの著名なガマリエル先生に師事しました。そのガマリエル先生にはあのイエスも少年時代にパウロより少し前から学んでいたようです。

パウロは最も尊敬していたガマリエル先生が「イエスこそは、神の子、救い主である」と明言されるのを聞いて強く反発していました。

一方で、当時のイスラエルの人々はイエスの新しい教え、癒しの力に心奪われ、十字架の死の犠牲と復活の奇蹟に「神の子キリスト」を確信し、瞬く間にイエスを信仰する人の群れ「キリストの道」を形成していったのです。

しかし、ユダヤ教指導者として先頭に立ってイエスの者達を迫害してきたパウロは「イエスが神の子、救い主とは信じられず」更に、彼らへの追放の手を強めたのであります。そこで追っ手パウロに起きたのが復活のイエスとの衝撃的な出会いと「回心」でした。

「サウル、サウル、なぜ私を迫害するのか」「私はあなたが迫害しているイエスです」「主よ、どうしたらよろしいでしょうか」「行け、私があなを遠く異邦人のために遣わす」

パウロは、イエスの者達を迫害したことで打ちのめされ、しかしイエスの者（この道）へと「回心」したことによって、神に赦され、新しい力を得て「この道」を述べ伝える者へと大きく変えられて行ったのです。そのおかげで、巡り巡って2千年、私達日本人にも御言葉が、、、。と思いますとパウロさんの「回心」に感謝ですね。